2019 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦
鈴鹿サンデーロードレース
RACE REPORT

■開催概要

●シリーズ名称　：MFJ公認・承認 2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦 鈴鹿サンデーロードレース
“コカ・コーラ”鈴鹿8耐　選抜レース<8耐トライアウトFINALステージ>
2019 JP250 4時間耐久ロードレース

●主催　：株式会社 モビリティランド 鈴鹿サーキット　三重県鈴鹿市稲生町7992

●会場　：鈴鹿サーキット国際レーシングコース・フルコース（2輪/5.821km）

●参加台数　：総参加台数/258台
インターST600 ..... 8台
ナショナルST600 ..... 53台
JP250 4時間耐久ロードレース ....46台（インター4台／ナショナル42台）
JSB1000<8耐トライアウトFINALステージ> 47台
ナショナルJSB1000 ..... 29台
インターJSB1000 ..... 47台
インターJ-GP3 ..... 6台
ナショナルJ-GP3 ..... 22台（内、NSF250R……14台）

●開催日　:2019年6月8日（土）・9日（日）

●天候／路面　：晴れ／ドライ（6月8日）　曇りのち雨／ドライ→ウェット（6月9日）

★次回レース予定
2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第3戦 鈴鹿サンデーロードレース
■開催日／2019年7月14日（日）
■会場／鈴鹿サーキット国際レーシングコース・東コース（2輪/2.243km）
■開催クラス／インター・ナショナルJSB1000／J-GP3／ST600／JP250、
鈴鹿ST600R（Revival）、CBR250R Dream Cupエキスパートクラス、CBR250RR Dream Cup
■主催／株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。
リザルトページ　https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。
バトルファクトリーHP　http://www.battle.co.jp/

JP250 4耐、8耐トライアウトも開催 いつも以上に盛り上がった サンデー第2戦フルコースラウンド

「レースを楽しみたい」というエンジョイ派から全日本ロードレース選手権などへの昇格を狙う若手ライダーまで幅広い層が参戦する「鈴鹿サンデーロードレース」。その今シーズン第2戦がフルコースを舞台に開催された。今回のトピックと言えば、まず2DAYレースとして開催されたことが挙げられる。6月8日（土）には各カテゴリーの公式予選に加え、「鈴鹿インターST600」と「鈴鹿・近畿ナショナルST600」の混走による決勝レースが行われた。参戦台数が両カテゴリーを合わせて61台と多かったため、公式予選は2つのグループに分けて行われ、決勝レースには44台が出走した。

9日（日）は早朝より「鈴鹿JP250」と「鈴鹿・近畿ナショナルJP250」の混走による4時間耐久レースが行われた。
2016年シーズンからはじまった入門カテゴリーの「JP250」は開催初年度からたくさんの参戦台数を集めてきた。翌2017年からは4時間耐久レースがスタート。この4耐は鈴鹿4耐<ST600>、さらには鈴鹿8耐へと続く鈴鹿の耐久シリーズのボトムレンジを担うレースに位置づけられており、ステップアップを狙う若手ライダーが多数参戦している。
今回のレースでは片山千彩都（19歳）／笠井杏樹（20歳）組がポールポジションを獲得。片山は公式予選中にマークした自身のタイムより速いペースで周回しながら単独トップに。しかし、セーフティカーがコースに入ったことにより、笠井、中澤皓平（22歳）／中山愛理（21歳）組の中山がテールtoノーズの状態に。中山は一気に笠井をパスすると、そのまま笠井を引き離すが、ウェット路面により、その中山が転倒。片山／笠井組が独走で総合優勝を飾る結果となった。女性ライダーペアのポールポジション獲得は鈴鹿サーキット史上初。女性ペアの総合優勝も鈴鹿初だった。

その「JP250」に加え、「J-GP3」にも若手ライダーが多く参戦している。今回はインタークラスとナショナルクラスを合わせて15名のティーンエイジャーがエントリー。最年少は中村煌、古里太陽、Senna Agius（それぞれ13歳）だった。
鈴鹿8耐への参戦チーム選抜レースである「8耐トライアウトFINALステージ」が併催されたことも今回のトピックだ。今年の鈴鹿8耐への参戦権を獲得する最後のチャンスであるこのレースには47名が参戦。決勝レースに出走できるのは40台であるため、公式予選から激しいタイムアタック合戦が展開されたことに加え、12周による決勝レースでもチェッカーが振られるまでひと時も目が離せないバトルが披露された。
次戦は鈴鹿8耐を2週間後に控えた7月14日（日）に開催される第3戦。夏本番直前に行われるこのレースにも是非注目していただきたい。

MFJテクニカルアドバイザー／セーフティ委員長の小澤源男氏がタイムを出すためのライディングテクニックやセッティング手法についての講習会を行った。

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦 レースレポート（1）

■インター・ナショナルST600

2番グリッドスタートの増田雄基がホールショットをゲット。ポールポジションスタートの松永修がそれに続く。増田、松永、3番グリッドスタートの岸田尊陽のオーダーでオープニングラップを終了。岸田以降を引き離した増田と松永がトップグループを形成する。5番グリッドスタートの綿貫舞空が岸田をパスすると、ファステストラップをマークしながら増田と松永にも接近。綿貫は5周目のメインストレートで松永に並びかけるが、パスするには至らない。5周目の130R進入で松永が増田をパス。その立ち上がりで膨らんだ松永を増田と綿貫がパスする。6周目のデグナーカーブで綿貫が転倒。8周目に増田をパスした松永がトップチェッカーを受けると同時にインタークラスのウィナーに。ナショナルクラスでは増田が2連勝を飾った。

インターST600仮表彰式　（優勝：松永修、2位：岸田尊陽、3位：澤村俊紀）

ナショナルST600仮表彰式　（優勝：増田雄基、2位：川名拳豊、3位：大中真次）

■JSB1000＜8耐トライアウトFINALステージ＞

ポールポジションスタートの寺本幸司がウォームアップラップで転倒。スタートディレイとなる。ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの中村修一郎。それに10番グリッドスタートの高田速人、2番グリッドスタートの奥田貴哉と続く。そのオーダーのままオープニングラップを終了。2周目に奥田が高田をパスする。中村と奥田がトップグループを形成すると、3周目の1コーナー進入で奥田がトップに。奥田はそのままリードを広げていく。中村の背後には11番グリッドスタートの櫻山茂昇、高田と続く。そこから若干離れ、20番グリッドスタートの鈴木明が5位を走る。高田が櫻山をパス。鈴木も櫻山をパスする。結局、奥田がトップチェッカー。奥田、中村、高田を含む上位14位までに鈴鹿8耐への参戦権が与えられた。

JSB1000＜8耐トライアウト＞仮表彰式　（優勝：奥田貴哉、2位：中村修一郎、3位：高田速人）

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦
レースレポート（2）

■JP250 4時間耐久ロードレース

ル・マン式により4時間におよぶレースがスタートする。ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの中澤皓平（中山愛理ペア）。それに12番グリッドスタートの富田一輝（森山貴史ペア）が続く。中澤、9番グリッドスタートのRajiv Sethu（Senthil Kumar Chandrasekaranペア）、富田、ポールポジションスタートの片山千彩都（笠井杏樹ペア）のオーダーでオープニングラップを終了。2周目のヘアピンで片山が一気にトップに立つ。

4周が終了する頃になると、片山と中澤が集団を抜け出し、2台によるトップグループを形成。その後方でRajiv、VIET NAM CAO（VU THANHペア）、小野雅治（佐藤大輔ペア）、富田、谷本音虹郎（高瀬敬次ペア）の谷本の5台が3位の座を争う。

次第に片山が単独トップに。佐々木將旭（本郷雅也ペア）、福井宏至（鈴木克正ペア）が中澤に接近していく。16秒ほどのアドバンテージを築いた片山が25周目終了時点でピットイン。笠井にライダーチェンジする。

S字で転倒したマシンがコース上にとどまったことにより、セーフティカーがコースイン。これにより、トップの笠井、中澤からチェンジした中山の差が4秒441まで詰まる。34周目の130Rで中山が笠井をパス。中山はそのままリードを広げていく。

38周が終了する頃、まずはS字で雨が降りはじめ、続いてデグナー、ホームストレート、ヘアピン、逆バンクなどでもレッドクロスが出される。トップを走る中山がデグナーで転倒。その直後に2回目のセーフティカーが入る。

大きくリードを築いた片山／笠井ペアが鈴鹿サーキット史上初の女性ライダーペアによる総合優勝を飾ると同時にナショナルクラスのウィナーに。インタークラスを制したのは総合20位の谷本／高瀬ペアだった。

インターJP250仮表彰式　（優勝：谷本音虹郎／高瀬敬次、2位：金山和弘／永坂嘉己）

ナショナルJP250仮表彰式
（優勝：片山千彩都／笠井杏樹、2位：小野雅治／佐藤大輔、3位：佐々木將旭／本郷雅也）

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦
レースレポート（3）

■インターJSB1000

ポールポジションスタートの柴田義将が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。それに5番グリッドスタートの田尻悠人が続く。オープニングラップの2コーナーで田尻が柴田をパスしてトップに。田尻、9番グリッドスタートの高田速人、柴田のオーダーでオープニングラップを終了。それに2番グリッドスタートの松本隆征、10番グリッドスタートの内山寛と続く。田尻、高田、柴田、松本、内山の5台がトップグループを形成。そこから田尻と高田が抜け出すと、3周目のスプーンカーブで高田が田尻をパス。高田はそのまま田尻を引き離しにかかる。田尻の背後に柴田が接近。内山、松本の背後には吉田光弘が追いつく。終盤に田尻が再び高田に接近していくが、高田がトップチェッカーを受けることとなった。

インターJSB1000仮表彰式　（優勝：高田速人、2位：田尻悠人、3位：柴田義将）

■ナショナルJSB1000

3番グリッドスタートの香川純が良いクラッチミートを披露。その香川、ポールポジションスタートの大須賀俊晴のオーダーで1コーナーへ飛び込んでいく。オープニングラップのヘアピンで2番グリッドスタートの沖永博一が大須賀に並びかける。沖永は大須賀と香川を一気にパス。沖永、香川、大須賀のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。大須賀は2周目の1コーナーで香川をパス。2周目には戸谷健司が香川と大須賀をパスして2位に。そのバトルの間に沖永が戸谷以降を引き離し、3周目終了時点で3秒002のアドバンテージを築く。戸谷、大須賀、香川が2位グループを形成。そこから香川が脱落。戸谷も大須賀を若干引き離すが、その戸谷が6周目の1コーナーで転倒。沖永、大須賀、香川のオーダーでチェッカーを受けた。

ナショナルJSB1000仮表彰式　（優勝：沖永博一、2位：大須賀俊晴、3位：香川純）

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦
レースレポート（4）

■インター・ナショナルJ-GP3／HRC NSF250R Challenge

ポールポジションスタートの古里太陽の横から羽根巧が抜け出ていくが、ホールショットを奪ったのは古里。それに濱田寛太、羽根と続く。転倒したマシンがコース上にとどまったことにより、赤旗が出されてレースはやり直しとなる。古里と濱田が横並びの状態で1コーナーへと突入していくが、濱田がホールショットをゲット。羽根が古里、濱田を立て続けにパスすると、その羽根、濱田、古里のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。その3台に伊藤元治、鈴木大空翔、高橋直輝らを加えた8台がトップグループを形成。3周目の130Rで羽根が、4周目のS字で高橋が転倒する。結局、鈴木がトップチェッカーを受けると同時にインタークラスのウィナーに。ナショナルクラスを制したのは総合2位の大庭飛輝だった。

インターJ-GP3仮表彰式　（優勝：鈴木大空翔、2位：岩田吉正、3位：川瀬啓一郎）

ナショナルJ-GP3仮表彰式　（優勝：大庭飛輝、2位：馬場悠光、3位：古里太陽）

HRC NSF250R Challenge仮表彰式　（優勝：古里太陽、2位：Senna Agius、3位：中嶋昂士）

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦
この日、キラリと光ったライダーに一問一答
Voice of Pick up Rider
-SUNDAY EDITION-

Voice of Pick up Riders -SUNDAY EDITION-
この日、キラリと光ったライダーに一問一答

この日、キラリと光ったライダーに一問一答
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

インターST600でクラス優勝

松永 修 選手(51)
(TeamマツナガKDC&yss／ヤマハYZF-R6)

Q.昨シーズンはナショナルJSB1000でチャンピオン、今年はインターJSB1000に転向と同時にインターST600にも参戦。今回600の公式予選で後続より2秒近く速い圧倒的なタイムをマークしました。
A.思っていた通りの走りができて、タイムも狙っていた通りに出ました。タイム差があるため、順当に行けば勝てるとわかっていたので、決勝レースも焦らずにいこうと最初から考えていました。

Q.決勝レースも思っていた通りの展開になりましたか。
A.本当はスタートで前に出ることができたらそのままリードを広げようと考えていました。しかし、スタートで前に行かれたので、プレッシャーをかけながらその後ろでチャンスを狙いました。中盤で1台が転倒。一騎打ちになった後、増田雄基選手がスプーンカーブでミスしたのを見て、これなら行けると思いました。トップに立った後も落ち着いて走ることができました。

Q.今年は鈴鹿4時間耐久レース<ST600>に参戦することが決まっていますね。
A.中谷亜加音選手と組んで参戦します。順位はそれほど気にしていません。無理せず、完走することが目標です。チームの人たちと楽しみながらいっしょに盛り上がれたらと思います。